

あいしま号

〒246-0022

横浜市瀬谷区三ツ境

73-7

株式会社アイシマ

TEL045-360-6021

グループホームあんず 秋山主任のお話です

こんにちは！

私はグループホームあんずで主任をさせて頂いています秋山智子です。

あんずの主任となり、1年8ヶ月が過ぎました。秋山ホーム長の「肩肘張らず、自分らしくやっていけば良い」と後押しして下さいたお言葉と、人生の大先輩であるご入居者様や、日々共に働いているスタッフの皆様を支えられ、今日まで頑張ってくれました！・・・いえいえ、これから精一杯頑張ってください、温かく見守って頂き、時には厳しくご指導して頂けたらと思っております。



ここで、少しグループホ

ームあんずの紹介をさせて頂きます。

あんずは、相鉄線弥生台駅より徒歩10分程の住宅街にあります。

周囲は緑に囲まれており、草木で四季を感じる事ができます。

そんなあんずも今年の9月で6年目を迎えました。

敬老会も兼ね、ご入居者様や職員でパーティーを開催しました。



さて、ようやく本格的に寒くなり、すっかり冬の到来となりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか？

今年もあと一カ月となりましたが、今年一番の大きな出来事と言えはやはり3月11日に起こった「東日本大震災」かと思えます。

この日わたしは、運営推進会議の為、他法人のグルー

ホームに居ました。

「さて、会議を始めよう」としたその瞬間、「グラツッ」

「ん??地震??」会議室を出ると大きな揺れが発生しました。

このグループホームの「怖い、怖い」とパニック状態のご入居者様を抱え込み、立っている事もできずソファでうずくまり「大丈夫、大丈夫」と自分も恐怖の中、とっさに取った行動でした。

心臓はこれまで経験した事がない程「バクバク、ドキドキ」手足は「ガタガタ」と震え私地震もパニック寸前でした。

その後会議は中止となり、すぐにあんずへ戻りました。ご入居者様は皆リビングで一塊となっており、全員の方を確認。無事確認ができ、安堵の気持ちと涙されるご入居者様と共に「ホッ」とし涙がこぼれたのを覚えていきます。

被災地の被害に比べたら小さな事だとは思いますが

例えようがない程の、恐怖でした。

自然災害は防ぎようがありませんが、私なりに出来る、震災・災害対策は最低限身に付けておき、大災害が起らぬよう、ただ、ただ祈るしかありません。



最後に少しだけ私事の話をしようかと思えます。

私はDX「H」のファンでありまして、毎年のようにライブ会場に足を運び、日頃のストレス??うっぶん??を発散しています。

そのライブの日が、今年も押し迫ってまいりました！思いっきりはっちゃけてこようとと思っています。(笑)これから、ますます寒くなります。

皆様お体を大切に日々をお過ごしください。

小規模多機能オリーブ



11月11日(金)、小規模多機能オリーブにて、地域の方、

運営推進会議の委員の方、アイシマ職員22名、消防署員16名立会いの中、はじめての総合消防訓練が実施されました。

訓練当日は雨でしたが、自治会長の「災害は天候を選ばないから雨でも訓練を実施しよう」という力強い言葉のおかげで、予定通り訓練を行うことができました。

◆訓練内容◆

- ・ 火災発生の現場確認
- ・ 初期消火訓練
- ・ 通報訓練
- ・ 近隣への協力要請
- ・ 避難誘導
- ・ 負傷者の応急救護
- ・ 情報提供訓練

訓練は日中を想定した訓練と、夜間を想定した訓練を行い、訓練終了後は意見交換会を行いました。

日中想定した訓練は、15名の利用者様を6名の職員で玄関と非常口まで避難誘導、施設の外

に出た利用者様は近隣の方6名と消防団の3名により、一時避難場所である隣りの「レストラフ」の音、駐車場まで避難しました。

応急救護として頭部と右大腿部にケガをして倒れている負傷者を身近にある毛布で避難場所まで搬送し、負傷者を三角巾で処置する訓練も行いました。



毛布にくるまれた負傷者を搬送している様子

夜間想定した訓練は2階で就寝中の利用者様を1名の夜勤職員が避難誘導を行い、外からは日中想定した訓練同様に近隣の方と消防団の方が避難誘導を行いました。

2階にいる時に火災が発生した場合、階段から避難できない車椅子の利用者様はベランダに避難して消防隊が来るのを待つように指導を受けていますが、

今回の訓練では2名の利用者様がベランダにいて救助を待つという想定での訓練のため、消防隊によるはしごでの救出訓練を実際に見ることも出来ました。



【意見交換会】

◇オリーブ職員

- ・ 消火器の使える時間(12〜13秒)はとても短い時間と実感した。
- ・ 情報提供訓練では聞かれたことに対して的確に答えることができなかった。

◇ご協力頂いた近隣の方

- ・ 2階からの避難誘導の際、屋外階段がせまくて避難の効率が悪いと感じた。

・ 近隣協力者に避難誘導を頼む際、「あと何人残っています。」

など状況を教えてほしい。

◇消防署から

- ・ オリーブは毎日利用者様の人数が違つので人数把握を徹底する必要があります。

- ・ 利用者名簿とオリーブの平面図を一緒に置き、すぐに持ち出せることが必要。

煙は非常に熱いということを感じてほしい。

◇他施設のアイシマ職員

- ・ 自分の事業所とオリーブのフロアの違いを考え、避難経路テーブル配置、車椅子の利用者様の座席位置の検討をする事ができた。

- ・ 自分のホームでの訓練も地域の方に参加を呼びかけ訓練を重ねていきたい。

消防隊による2階からの救出訓練では、どんなに急を要する状態でも、しっかりと一つずつ声を掛け合って安全確認を行っていた事が印象深かった。

◇施設部長

・ 悪天候というこれまでに実施されてきた避難訓練とは異なる状況で実施された事で多くの事に気づかされ、改めて認識した

事がありました。

職員の間には被害を最小限に留める為、考える余裕もなくその場での判断が求められる。

体が自然と当たり前のように動くよう、様々な役割で訓練を繰り返す行い、訓練においての失敗を振り返り、問題点を共有しながら全員で解決していく姿勢が求められる。

いかなる災害時においても、時間や場所、天候等の状況を選んではいけないという点からもそれぞれが問題意識と重要性を感じ、各ホームにおいての訓練に生かす事ができるのではないかと感じました。

今回の訓練を通し、短時間で避難訓練を行うためには、地域の方々の協力がとても心強いことを実感しました。

編集後記

師走となり、街はキラキラと輝き始めました。今年一年、あいしま号を読んで下さった皆様に御礼を申し上げます。くれぐれもお体に気を付けて、来年も元気にお会いしましょう！ (順)